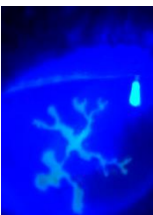




# フジタガンカニュース

Vol.120 2020.9.28



## 色覚検査と色覚異常について⑫

今回のフジタガンカニュースは、前回号から引き続き色覚の話です。色覚異常がある為に不当な差別を受ける事がある、というのは事実です。名古屋でそうした事実に向かい合って活動をされている眼科のドクター(高柳泰世先生)があり「色覚ナビ」というホームページを運営されています。

<http://www.shikikaku.com/>

全体にかなりボリュームのあるページとなっていますが、その冒頭の高柳先生からのメッセージを引用してみたいと思います。

@@

### 高柳泰世よりメッセージ

学校での色覚検査で、初めて「異常」といわれ、ショックを受ける児童生徒や保護者が少なからずあります。その驚きの大きさは、健常者の想像を絶するもので、そのことをひた隠しにしようとする風習が長い間続いています。進学、就職、結婚という、これからの人生に暗い影が投げかけられたからです。学校での色覚検査は、児童生徒の異常を見つけ出すためのものではないのですが、結果として世の中がそうしたのです。しかし、それは全く理不尽なことです。色覚「異常」に対する多くの誤解や偏見からそれが生まれ、長年にわたって積み重ねられたためです。

こうした悪い思いこみを正すためには、学校保健関係者の色覚に対する正しい知識と、色覚特性の児童生徒への温かい思いやりが必要です。

色覚特性は、「異常」というよりはある種の色の組み合わせの区別がしにくい特殊な状態、つまり個性ともいべきもので、日常生活や仕事の上で不便は少ないものです。

最後に、色覚特性を持っていて、著名な視覚生理学者(医師)である慶應義塾大学名誉教授・村上元彦先生のお言葉を、先生の御著書「どうしてもが見えるのか」(岩波新書)から引用して結びとします。

「私は色覚異常です。この言葉は私にとっては目の敵です。目の敵とは色を感じる錐体物質の遺伝子の異常ではなく、世間の人々の無知と独断に基づく差別です。思えばこの敵とは長いつきあいです。子どもの頃に味わわれた劣等感、また色々な学校の入学試験で苦しめられました。私の場合に困惑したのは、開業医の父の後継ぎをするため、何としても医学部に潜り込まねばならなかったからです。一次の学科試験が通っても、二次の身体検査の色覚検査に引っかかると落第でしたから、私は石

原式色盲票を丸暗記して入学試験を潜り抜けました。いざ入学してみると、私の色覚異常は医学の学習に何の支障にもなりませんでした。最近の分子遺伝学の進歩は急速で、色覚に関する遺伝子のことも相当わかってきました。遺伝子の方から逆に眺めると何が正常で何が異常かは明確な線引きをすることは不可能であると私は考えます。

## 今月のお知らせ

@@

今月のフジタガンカニュースは紙面の関係でここまで。「色覚ナビ」からの引用は次号に引き継ぎたいと思います。新型コロナの感染には引き続き注意が必要ですね、急に気温も下がりましたし、皆さん体調には十分に気を付けて下さい。



<http://www.fujita-ganka.com>

眼科診察時には「絶対にマスクを外さない」とお願いいたします。また、10/16(金)午後と10/17(土)は院長が臨床眼科学会に出席する為当院は休診、今年の年末年始の休診は下記の日程となります。ご迷惑をお掛けしますが、ご理解の程お願い申し上げます。

## 令和2年度冬季休診日程

12/29 ~ 1/3

AM  
PM

×  
×

※ × . . . . 休診  
○ . . . . 通常診療



FUJITA-EYE-CLINIC

藤田眼科

エフ・ビジョン(コンタクトレンズ販売)

F-Vision

042  
(645)  
0575  
042  
(642)  
2911